

日 刊	新東京	No. 4580	2008年8月1日(金)
		日本郵政グループ労働組合 JPU新東京支部 編集委員会	
		03-5690-2847	内線 4163

〔寄稿〕 敗戦（終戦）63周年記念に代えて

猫の読書 23冊目

撃沈された船員たちの記録 土井 全二郎
光人社NF文庫 657円＋消費税

数年にわたり、JPU労組日刊新東京に、主に太平洋戦争に関する寄稿・投稿をしてきました。拙文ながら毎回読んでいただき、この場を借りて御礼申し上げます。筆者が、この太平洋戦争にここまでこだわるのは、世界情勢に無知で戦争目的に定見がないのに国家の主導権を握り朝令暮改を繰り返した軍指令部、保身に走って軍にすり寄り政治を放棄した政治家や内閣、国民を感情で煽って目を眩ませ真実を伝えなかったマスコミ、現在よりも徹底した内ゲバ・縦割り・セクト主義の省庁など、上部組織がその機能を全く果たしていない中、自らの役割に矜持（きょうじ、プライドの漢語）を持って成し遂げた、当時の労働者たちの矜持の持ち方への尊敬と共に、「例え末端で働く労働者が義務を果たしても、それらを指揮する上層部が役割を果たさないと、組織（太平洋戦争の場合は国家）自体が崩壊してしまうのだな。そうならないよう、労働者として意見具申できる労働組合は大事だから、活動がんばろう」

と、あの時代を反面教師として組合活動の尊さを感じるからです。

さて、今回紹介する「撃沈された船員たちの記録」ですが「撃沈」といえば、戦艦大和やら空母飛龍など、海軍の艦を想像すると思いますが、この本に出てくる船員は、太平洋戦争時に物資輸送船に乗船していた、一般船籍の船員です。

日本軍は「日本民族の自存自衛のため」に太平洋戦争を起し、

東南アジアの各地を占領しました。占領地から得た、石油、鉄鉱石、ボーキサイト(アルミニウムの原石)、レアメタル、天然ゴム、綿花、米(戦前の日本は米輸入国だそうです)、砂糖などを日本に輸送する役目を負ったのが、一般船籍の輸送船なのですが、軍は「艦隊決戦」をする気は満々でも、第一次大戦でドイツ帝国のUボート(潜水艦)が連合国の輸送船に対して行った通商破壊戦の戦訓どころか、輸送船の護衛一ひいては補給そのものを軽視していたため、輸送船は米軍の潜水艦や航空機に片っ端から撃沈されてしまいました。この太平洋戦争で撃沈された輸送船舶は2500隻余、殉職された船員は6万1200人余に上るそうです。この本では、撃沈された輸送船、それに乗船していた「一般兵、軍馬、軍属よりも酷い扱いを受けた」船員たちの体験記が収められています。

そして、著者の土井氏は、この海上輸送軽視は、現在にも生きていると警鐘を鳴らしています。先日、漁業関係者が原油高を理由に全国一斉の操業停止(これはストライキと言うのではなかろうか?)を行いました。これに限らず、原材料を輸入し、製品を製造して輸出することで生計を賄っている、いわゆる「加工貿易国」日本の国民は、もっと生活必需品の原材料を輸送する船舶関係者に敬意と思いやりを持つべきではないか、と著者は訴えています。

新興国の躍進による原油や諸物価の値上げが続いている今年の敗戦記念日には、日本に豊富な物資をもたらしてくれている船舶運送者に対する畏敬の念を、今一度、思い至ってみてはいかがでしょうか？

【猫舌】

(付記) この物資輸送計画や輸送船護衛計画がいかにか杜撰であったかは、角川文庫「太平洋戦争 日本の敗因1 日米開戦勝算なし」か、森本忠夫氏著の光人社NF文庫「魔性の歴史」(PHP新書「マクロ経営学から見た太平洋戦争」も内容は同一です)をお読み下さい。どちらを読んでも、あまりの上層部の無能ぶりに呆れ返ってしまい、人間として凹む内容です。

〔投稿〕

心理学から学ぶ「『通り魔』ができるまで」

最近、秋葉原通り魔事件を筆頭に無差別殺傷事件が立て続けに起きています。マスコミでは、様々な犯行理由を問いただして見えます。先日、偶然寄った書店で購入した『戦争における「人殺し」の心理学』（ちくま学術文庫）に、殺人に関する興味深い考察があったので、それを元に、人が通り魔になる課程を追ってみます。

ようになるのです。

まず、殺人を見たり聞いたりして慣らして、殺人に対して無感覚にします（脱感作という）。これは、毎日殺人事件の報道を流すだけでも効果があるそうです。

次に軍隊（特に有名なのは米陸軍）では、的を丸い板から人型に代え、成績の良い者には褒章を与えるなどして、殺人に対する条件付け（効率）を高めます。一般社会ではゲーム、特に敵がリアルに血しぶきをあげるような残酷なシーンを盛り込んだゲームなどを体験することで、条件付けが進みます（但しゲームの全てが悪い訳ではなく、マリオシリーズやテトリスなど、頭を使って難関を乗り越えるアクション・パズルゲームは人生体験上、有用との事です）。そして重要なのが、殺人を制御

第二次大戦後の心理学者の研究で、動物のみならず、人間にも同じ人間を殺すことへの強烈な抵抗感があり、人間を平気な顔をして殺せる「社会病質者」は人口の2%しかいないことがわかりました。では通り魔の犯人は皆「社会病質者」なのかというと、そうとは言い切れません。普通の「虫の殺せない」人間でも人殺しはできる

するための社会的学習と役割モデルの設定です。ここが問題で、軍では新兵を訓練する教官や所属部隊の上官がモデルになり、一定の歯止めが掛かるのですが、一般社会では、家庭内の役割モデル（家長）の消失と、娯楽メディアが隆盛になるにつれて、殺人を行う役割モデルの道義レベルが下がっており、歯止めがない点が問題です。具体的には、始めは法に則って犯罪者に制裁を加えた程度でしたが、やがて一個人が社会から軽視されたことへの恨みを晴らすために殺人を犯し、そして最終的には何の理由もなく無差別に殺人を犯すようになつていくのです。

彼ら通り魔は、このようなプロセスを得て、無差別殺人という行為をしでかしたのです。私たちの社会は、思っているよりも、明日には隣人が通り魔に変わるような環境が揃っているのです。

【猫舌】

新東京

NO 4586

2008年
8月18日(月)

日本郵政グループ
労働組合
JPU新東京支部
編集委員会

03-5690-2847
内線 4163

新東京支部18年間の思い出

8月29日、ついにJPU労組新東京支部が結成されました。

それに先立ちまして、今までの自分が関わってきた「全通」から「JPU」、そしてこれからのJPU労組新東京支部に望む事を自分なりに書きたいと思います。

私は平成2年8月に東京中央から、新東京・第2特殊に異動してきました。

その当時は、いち組合員として、あまり組合事には感心もなく、ただ自分の不利益になる時だけ組合を頼っていた、20歳の若造でした。

その若造が組合に関わるようになったのは、平成6年6月に第3特殊に異動になった事が大きな要因だったと思います。

同じ班に宮腰さん(現中部支部執行委員)が当時支部

青年部長をしていて、その時支部青年委員を任せられ、いろいろ手伝いをしていっただけなのに組合に染まっていったような気がします。

平成9年に支部の青年部長に任命されて、その当時は250名もいた青年部をどのようにまとめるか、考えさせられた時期もありました。

北海道スキーレクや、大島レク等、いろいろやってきたなあ...とおぢさんのように昔を思い出します。



プルタブ回収運動も東京地本全体の取り組みに発展して、発案支部としては非常に嬉しい限りです。

〈裏面にっづく〉

〈表面のつづき〉

今、新東京支部の課題はたくさんありますが、青年層の人達が全くない、という事と、深夜勤問題が改善されていないということがあります。

年配者は若い人とカラオケ、レク等で若さを貰いつつ、酒の席では上下関係の厳しさや、仕事の事、私生活等を指導して、職場は活気付いていたと思います。

契約社員の組織拡大は、非常に良いことだと思いますが、職場の高齢化問題も重要視してもらいたいと思います。

また、深夜勤問題は、深夜勤中心の新東京支部が先頭になって声をあげていかなければ全く進展しない問題です。

再任用職員にも深夜勤を強いられる今の現状。(自分も60歳を過ぎてからさらに5年間も深夜勤をやれ、なんて、年金の払い損!働きがいのある職場?なくに言っちゃってんの?って感じですよ)

通年的に問題を上げてい、る、と言うことはわかりませんが、ここは思い切つて、**暦日の非番をもう1日増やして!**

とか、**特例休息を拘束時間を増やさないで1時間位盛り込んで欲しい!**等言つてほしい!

「そりゃ、無理だろ。だって1日8時間労働で」と、杓子定規のように諦めてもらいたくないです。

私たちは、普通の人では考えられないような過酷な勤務形態で仕事をしているのですから、身体の負担や家族サービスの難しさ等、勘案してもらいたいです。

労働条件改善!

これから労働組合は、人と人の横のつながりを、そして現場の声を上にあげる、という事を大切にしてほしいと思います。

いろいろ書きましたが、この辺で長くない雑談を終わりたいと思います。



日 刊

新東京

NO 4 5 9 0

2008年
8月22日(金)

日本郵政グループ
労働組合
JPU新東京支部
編集委員会

03-5690-2847
内線 4163

あの頃、みんな若かった。

野球・サッカー・ゴルフ・ボーリング

一八年前、四二歳の若き横山支部長が新東京開局とともに誕生した。

そのもとで勤務的には一六勤で3日に一回宿直をおこなう三交代制・組制度だったが、若い組合員たちは前任局の文化・伝統を持ち寄せていろいろなレク

レーションをくり広げた。

晴海・東京中郵の尖鋭が集まった野球部「オール新東京」。

全国野球大会の常連で、その名を全国に轟かせた。田中、今井、山中という名前が日刊紙面を飾った。「一輪送ビッグウェーブ」「バッドボーイズ」「ボー

ナス」「中郵ロビンス」などのチーム名、覚えていますか？

また各課各組ごとに夢の島公園でソフトボール大会「夢の島カップ」もおこなわれた。強い？三輪送の打倒をめざしトーナメント方式でくり広げられた。

試合前後のおいしいビールを目当てに、駆けつけてくれた先輩たちの口汚い応援合戦も名物になっていった。

一六勤務から仮眠時間を取り除いた新夜勤が導入されるという厳しい労働条件。全国的にくり広げられた「人事交流」によって各局へと主力？メンバーが散っていき、レクの開催がむず

かしくなっていく。

そうした中でも二特殊を中心にしたサッカーチーム「FC新東京」は、国立（郵政大会）、春日部（組合大会）と活躍した。色本、諸岡、松木という名が踊っていた。

ゴルフ大会も東京地本とは別に独自におこない、いまだに続いている。本部・地本役員も参加した中に長澤さんの名前が忘れられない。まさに「継続は力なり」。

一特殊の団塊の世代を有名？にしたボーリング大会も東天紅、蔵王ボール、ロッテ会館とくり広げられた。

大型バスでのレクリエーション、ブラックバス・ハゼ釣り、

映画を見にいく会、野球・相撲

・プロレス観戦、クラシック・七〇年代ロック音楽鑑賞などの

8月29日（金）

JPU新東京、全郵政新東京組織統合

第一回支部
結成大会

場所 大会議室

とりくみも細々と続けられている。ロックバンドも何組かが、つくられ公開演奏もされた。

初めて取りくんたバザーや、一五〇名以上が集まった若洲公園、清水公園・牛久でのバーベキュー大会も歴史に残る楽しい思い出となっている。

今日、私たちの職場は三〇歳以下の人が少ない職場になってしまっている。このような状況は仕事上、経営上、疑問に感じ、深夜勤の改善もすすまず仕事も厳しくなっている。

こうした中ですが、組合員が少しづつ創ってきたこのような文化を大事にして、支部統合後も引きついでいきましょう。

日刊新東京 ご愛読いただき ありがとうございました 8月28日に終刊となります

日 刊

新東京

NO. 4591

2008年
8月25日(月)

日本郵政グループ
労働組合
JPU新東京支部
編集委員会

03-5690-2847
内線 4163

年(平成20年)の新東京支部結成以来18年間、支部機関誌である日刊新東京を日々発行してきました。ご愛読まことにありがとうございます。

J P 労組本部・東京地本における組合統合は終わっています。新東京支部は、8月29日

部運動がスタートします。
職場段階での統合がようやく始まり、ゼロからのスタートとなります。

<p>支部長 あいさつ</p> <p>局長にあたって</p> <p>新東京郵便局に配転されました。今度、新局の支部長に予定されました中野支部出身の横山と申します。新局へは、それぞれの思いを胸に配転されてきたことと思えます。私自身も局外への配転は初めて。狭く、また支部長という任務を受けて、緊張感と責任の重大さを噛み締めながら、今回の開業を迎えたところです。</p> <p>部存知のとおり、新局は中野をはじめ、秩野・晴南を中心とした「伝統と歴史」のある支部、組合員が一瞬に集まり、同じ屋根の下での生活が始まります。</p> <p>「働きがい」のある職場に</p> <p>そして、郵政省が「郵便のネットワークの最大拠点」として、取償をかけて建設されたこの新局が、外から見た広大な敷地に立派な馬車同様に、内ではくろ</p>	<p>新東京</p> <p>相互の「良き」の発揮を!</p> <p>横山 敏夫</p> <p>永い歴史の中で、運動のスタイルにもいろいろ特徴があるかと思えます。しかし、その「思い」をお互いに確認するのではなく、お互いの「良き」を出しながらの組織運営をはかりたいものです。</p> <p>皆団結で、日本一の局にふさわしい日本一の全通支部の建設を!</p>
--	--

に予定されている、全郵政ベイセントラル支部とJPU新東京支部の第1回支部大会(支部結成大会)から新執行部による支

当然ながら日刊新東京も、予定どおり発行すれば4594号を区切りに終刊となります。

支部・分会の役員、組合員が互いに協力し合いながらなんとか積み重ねてきました。

18年分のまとめはすぐにはできませんが、交渉事項・労働条件・春闘・時短・反戦平和・職場のちよつとしたデキゴト・レクの報告・映画の感想・本の紹介など、さまざまな題材を取り上げ、組合員にいちばん身近な情報伝達物として教宣してきました。

日刊紙の形式もはじめのころは、さすがにガリ切りはないものの、味のある手書き文字やワープロ打ち出しにイラスト集もしくは独自キャラクターもありました。レイアウトの自由度は、

現在から見ても独創的であり作者のセンスの高かさ（低さ）がうかがえます。

読まれる日刊紙をめざして内容の充実を求め、求められていきましたが、その時々々の執行委員などの文章力や、やる気などにも大きく左右されたのは事実です。裏の業界では「キリバリ日刊紙」「やつつけ日刊紙」と揶揄（やゆ）されるような目に余るものもありました。

はずかしながら：連続欠刊、誤字・脱字も…。

日刊紙上での論争や「いいはいほうだい」で言い過ぎでしまったこともありました。

全通新東



京支部が結成した時の創刊号から、今日にいたるすべての日刊紙を保存してあります。ちよつとかび臭いけど、読みたいな、と思う方はぜひ支部へ足をお運び下さい。

全通そしてJPUと受け継がれた良き伝統は、しっかりと引き継ぎ、反省すべき点は、きちんと反省していく、JPUのみならず全郵政のみなさんも同様に考えていることと思います。

新執行部体制になっても、あらたな支部機関誌が発行されると思います。

新支部運動をすべての組合員の参加で活発化し、盛り上げていきましょう。

JPU新東京支部編集委員会

運動の基盤は職場実態にあり

18年前の開局時、現ゆうパック分会は東京小包支部としてスタートした。組合員の構成は、東京北部、東京南部小包集中局出身者。定かな数字は忘れたが、職員が500名以上いた。当時、小包減少が続き、他局に営業要員として何ヶ月も常駐するということがあった。そのような状況下で職員が減らされ、「非常勤化施策」によっても3年間で150名もの減員が行われた。人事交流等もあり、多くの仲間が小包支部から離れていった。その後、組合員の減少と支部再編があり、銀座、東京小包、羽田で「湾岸支部」が結成された。

そして、局統合の中、2002年9月、新東京支部と合併し現在に至っている。

振り返ると、夜間帯の勤務形態は、16勤→新夜勤→深夜勤となり悪化！の一途を辿ってきた。このままで良いとは誰も思っていない。まさに肉体労働の小包職場。社員、非正規社員を含め、腰痛に悩む人も多い。

現職死亡という悲しむべき実態がある。先日、ゆうパック分会のYさんが57歳の若さで亡くなった。この場を借りてYさんの冥福を祈ります。10年前から血圧が高く、血圧手帳を持っていた事を知らされ愕然とした。最近になって血圧が高くなったと思っていた。本人はガマンをして泊まり勤務を続けていたのではないか。深夜勤務のせいだというつもりはない。組合員が置かれている実態を掴めていない自分が情けなくなった。実態を分かっていたら「成検」などを薦めることも出来たかもしれない。

肩肘張らず、当たり前のこととして「定年まで安心して働ける職場」を作ることが求められていると思う。

教宣部長としては歴代最悪だったかもしれない。ボウリング大会やバーベキュー交流会等の取り組みは多くの組合員、家族、ゆうメイトさんが参加し盛り上がった。しかし、日刊の企画を考えず、出すだけに終始した。「平和学習」の取り組み要請にも応えることができなかった。

是非、次期体制での取り組みをお願いします。

新支部結成に あたって

JPU新東京支部 支部長 下山 薫

あす、八月二十九日に『JPU
労組新東京支部』が誕生する。
全通からJPUへと続いた支
部運動へのご協力に対し、組
員の皆様にご感謝申し上げます。
全郵政ベイセントラル支部と
JPU新東京支部との両組織統
合による新執行部の新たな支部
活動に、更なるご協力を要
請します。
郵政民営分
社化という大
きな課題に対
し、郵政部内
労組がともに



日 刊

新 東 京

NO. 4594

2008年
8月28日(木)

日本郵政グループ
労働組合
JPU新東京支部
編集委員会

03-5690-2847
内線 4163

闘った。その両組織
が、昨年十月の本部
統一を皮切りに、十
一月には東京地本の
統一、そして支部統
合となる。
本年六月には、第一
回定期全国大会を北
海道で開催し、向こ
う十年間を展望した
「中期運動方針」を確
立した。七月には、
第一回定期地方大会
を開催し三万人組織
の達成を柱とする組
織方針と支部再編後
の支部組織の確立を
内容とする運動方針
を確立した。
支部統合への道筋に
ついては、都度にとり
開催した支部長会議
で意思統一を行って
進められてきました。
支部統合のスタンス
は「対等」「互譲」を
基本に、新東京は「単
独支部で結成」が確
認されまし



た。この方針を受け「支部統合準備委員会」を立ち上げ協議を進めてきたところだ。

あす、十八時より五階大会議室で支部結成大会を開催することとなっています。

多くの組合員の期待と不安の中での出発です。過去の歴史を思い出す方もいらつしやるでしょう。これは、両組織に共通すると思えます。しかし、郵政グループ内に働きともに汗を流す共通項もあります。

お互い育ってきた環境・伝統・文化を乗り越え、「対等」「融和」「融合」をしつかり胸に刻み込み新しい支



部運動をともに創造していきましよう。

日本最大の単一労組として連合内での影響力も大きくなります。

労働組合とは何なのか原点に戻り、組合員の声をしっかりと労働運動に反映させていき、安定した経営基盤確立のために経営者にもしっかりと伝えていくことが重要だと思えます。

現在、社員の九割・パートナ―社員の二割を組織するJP労組の誕生は「真に組合員の幸せ実現」を目指す上で大きな力となります。

この支部統合を機に未加入者の社員・パートナ―社員の皆様



に組合加入を訴えます。

ひとりでは、小さな力ですが、働くものが団結し力を合わせれば、労働条件や処遇の改善を訴え実現させることもできます。組織拡大は、労働条件改善、処遇改善の第一歩です。

仲間の輪に加わりともに「改善」をめざし頑張りましょう。組合に加入するにとどまらず、組織の一員となつてともに活動し、支部運動が飛躍的に拡大することも願っています。

今までありがとう、そしてあすからも頑張つていきますので、皆さんご協力よろしく願います。

日本郵政グループ労働組合

JP U新東京支部

支部長 下山 薫